企業組合 県木住

外壁が板、外に薪小屋 玄関土間に薪ストーブ

薪ストーブが鎮座する小川博義様邸の広い玄関土間に、一見して女の子用と分かる靴が何足もきちんと脱ぎ揃えられてあった。2階の子供部屋に、友だちが遊びにきているのだそうだ。3人姉妹のいちばん上の、中学生のお嬢ちゃんの友だちという。「一緒に勉強しているんですよ」と奥様。どうりで静かなわけだ。取材の前にひととおり室内を見させてもらうことにして、階段を2階へ。奥様が声をかけて、ドアを開けると、女の子たちが一つのテーブルに向かっていた。天井に梁を見せた山小屋のような造りの子供部屋。女の子たちが、林に集まった小鳥のように見えた。

2017年度第10回あおもり産木造住宅コンテスト
優秀賞受賞

ユーザー訪問

小川 博義 様邸

DATA

青森市小柳　2013年12月竣工
■延べ床面積／39.50坪（130.83㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台）、スギ（柱、大黒柱、床、建具、一部外壁、格子）、アカマツ（梁）。

――県木住の完成見学会に初めて訪れたのは平成21年（2009年）だそうですから、お建てになる5年前ですね。

ご主人の話　見学会はそうですが、ほんとうは、その前に展示場を見たのが始まりなんですよ。八戸から転勤で青森に戻ってきたときに、当時幸畑にあった県木住の展示場を見に行ってみたんです。

今から12年前ですね。まだ具体的に建てる段階ではなかったので、とりあえず外観だけでも見てみようとね。県木住のホームページに載っていた山荘風の展示場に惹かれていたんですよ。車に乗ったまま実物の外観を見ました。一目で気に入りました。板を張った外壁といい、四角い箱型ではない〝への字〟の、いかにも屋根らしい屋根といい、建てるならこんな家と自分がイメージしている「木の家」でした。その1年後でしたか、今度は室内を見学させてもらおうと尋ねてみたら、売却されたようで、誰かのお住まいになっていました。

――奥様の要望も「木の家」でしたか。

奥様の話　家づくりについては全面的に主人に任せていたから、わたしは一緒について行って見学するだけでしたけど、建て

薪ストーブが鎮座する広い玄関土間。右隣の引き戸の中はクロークで、雨や雪で濡れたコートなどがすぐ乾いて重宝

玄関土間から正面に広がるリビングに立つスギの大黒柱

る1年前(2013年)に、わたしも主人と同じ住宅が好みなんだ、と分かる機会があったんです。「住宅コンテスト」です。秋に青森産業会館で開かれる農林なんとかのイベントで……。

―「大農林水産祭」ですね。

奥様の話　そうそう、そこで、気に入った住宅の写真に投票するんですよ。

―「あおもり産木造住宅コンテスト」への応募作品の写真パネルを、林業のブースに掲示して、〝住んでみたい家〟として一般投票してもらうのです。いちばん多かった応募作品に特別賞が授与されるんです。

奥様の話　主人とは別々に投票したんですけど、後で聞いたら、主人も同じパネルでした。それが県木住だったんです。

キッチンと対面するダイニングテーブル

ご主人の話　その後で、県木住にメールで資料請求しました。外壁が板で、玄関に入ると広い土間があって、そこで薪ストーブが燃えている――そういうイメージの家に結び付くのは県木住です。気持ちが固まるまでには、他社の展示場なども見て回りましたよ。でも、壁も天井も、どの部屋も廊下も白っぽいクロス貼りならアパートと変わらない、といった、さめた見方をしているのが自分でも分かりましたよ。やはり、住みたいのは「木の家」なんです。12年前に幸畑で見たあの展示場のような、ね。

サンルームに立つ煙突 風呂上がりも寒くない

――外の薪小屋はご主人の手作りだとか。

ご主人の話　小さい頃から木を削ったり機械をいじったりするものづくりが好きでした。技術専門学校に勤めたのも、それが昂じてのことです。

薪小屋は第1号と2号があって、物置の前にあるのが1号、ダイニングの向かいにあるのが2号なんです。

――プロ並みの見事な出来栄えですが、これだけ大掛かりな物を作る大工道具一式はどこに仕舞ってあるのですか。

ロフトが付いた“木の空間”の子供部屋

2階の和室のそばのホールに立つ煙突の熱で室内は暖かい

ご主人手作りの“玄人はだし”の薪小屋

ご主人の話　（テーブルに広げた平面図を指差して）ここの「物置」です。ものづくりの工具とか、私の趣味のモトクロスのバイク置場にもなっているんです。図面で見ると、母屋と物置とが離れていますが、その間に屋根がかかっているので、玄関ポーチ代わりにもなるし、遊びにきた子供の友だちが自転車を置いても雨に濡れませんし、実に重宝なスペースですよ。このプランを提案してくれたのが山﨑さんです。

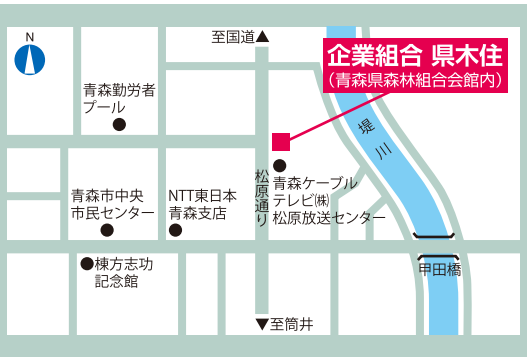
県木住担当・山﨑氏の話　物置を離しても建てられる土地の広さがあったということですね。それと、南側と北側の道路に挟まれた土地なので、どっちの道路からも玄関に入れるようにと考えました。満足していただいて良かったです。

奥様の話　わたしのお気に入りは、ここなんです（と奥様が土間続きのクロークの戸を開けた）。雨で濡れたコートをかけて干しておけますし、冬もそばの薪ストーブでコートも長靴もすぐに乾いてしまいます。2階は、サンルームに立っている煙突の熱で、洗濯物がよく乾くんです。2階に浴室があるんですけど、風呂上がりも寒くありませんしね。

本当はね、4畳半もある玄関土間のスペースを、いずれ娘が結婚して孫を連れて里帰りしたときに泊る和室にあてたかったんですけど……。でも、薪ストーブも家族の一員のようものですから、玄関土間は、薪ストーブの〝部屋〟ですね。

薪ストーブの煙突の熱で風呂上がりも寒くないという2階の洗面スペース

青森の木で家をつくる　企業組合
県木住
企業組合 県木住
青森市松原1丁目16-25（青森県森林組合会館内2F・3F）
TEL.017-732-5333　FAX.017-732-5777
http://www.kenmokujyu.com　E-mail : info@kenmokujyu.com



有限会社 桜庭工務店

家づくりの3つの条件 地元大工、ガルバ、無垢

ガルバリウム鋼板の濃紺の外壁と、太いスギの梁が橋脚のように架かるカーポートの柿渋色がマッチしたN様邸。内観の、吹き抜けに梁を現わしたリビングや、2階の板敷きの洋室などの写真は、9月（2017年）に開かれた完成見学会で撮影済みだった。その1か月後。N様邸に伺うと、先に到着していた桜庭尚利社長（㈲桜庭工務店）が、「じゃ、後はよろしく」と帰っていくのはいつものことで、同席すればユーザーが話しづらいから、との配慮なのだ。木製ドアの横のインターホンを押した。N様がどんな経緯を辿って桜庭工務店に依頼したのか――それを取材する。

ユーザー訪問

N様邸

DATA

平川市　2017年9月竣工
- 延べ床面積／33.31坪（110.13㎡）
- 使用青森県産材／ヒバ（土台）、スギ（柱、一部外壁、ベランダ、カーポート外壁）。

――どんなイメージの家を建てたいと思っていましたか。

ご主人の話　漠然とですが、ログハウスのような家がいいなと思っていましたので、八戸の住宅メーカーへ実物を見学に行きました。それが2年前です。ログハウスで建てる、ということじゃなくて、実物はどんな感じなんだろうか、と一度見てみたかったんです。アウトドア関連の雑誌に載っているログハウスを、いいな、と思っていただけですから、実物を見れば、漠然としたイメージも、現実感を帯びてくるだろうと思いましてね。

外壁にスギ板が張られた玄関ポーチ

太いスギの梁が橋脚のように架かるカーポート

――実際にご覧になっていかがでしたか。

ご主人の話　見学して、気に入ったのは、外壁の丸太ではなく、床の板でした。柔らかな感触の無垢材。新しい発見でした。家を建てるなら、これだけは欠かせない、と決めていたことが2つあるんです。1つは、外壁がガルバ（ガルバリウム鋼板）であること。それまで住んでいた家の外壁がサイディングなんですけど、建ててまだ10年にもならないのに凍害が発生したんです。これじゃだめだなと。ガルバリウムなら耐食性がありますからね。

2つ目は、地元の工務店であること。長く住む家だから、何かあってもすぐ来てくれるのは足回りのいい近くの大工です。八戸の業者に頼むつもりは最初からありませんでしたけど、見に行ったお陰で、〝無垢の床板〟という3つ目の選択肢が加わったのですから、それは収穫でした。

――土地を取得されたのはいつですか。

ご主人の話　一昨年（２０１

リビングの床板は柔らかな感触のスギの無垢材

マツの太い梁が現わしになった吹き抜けが広がる開放的なリビング

5年)の12月でした。住んでいる近くにいい物件が見つかりました。プランづくりの参考に、もっといろいろ住宅を見てみたかったんですが、12月になると見学会はありませんでした。それで今度はネットで調べ出したんです。ホームページに載っていた外観に目が惹かれたのが、弘前の設計事務所の家でした。まず、そこにプランを依頼しました。桜庭工務店に行き着いたのは、そのあとなんです。「弘前」「工務店」と大まかに打ち込んで、そこからあちこち開いていったホームページにガルバを張った外観の写真が載っていたのが出会いでした。桜庭さんにもプランを依頼することにしました。

天井の梁に自然木の野趣が感じられる洋室

造り付けではなく棚板の高さが変えられるようにした書棚

——2社からプランが提出されたのですね。

ご主人の話　2〜3週間のずれはありましたが、初めに設計事務所、次に桜庭さんから図面が上がってきました。どっちも良かったですよ。設計事務所の図面はこちらの要望がコンパクトにまとめられていて、予算的にもほぼ枠内に納まっていました。桜庭さんのほうは、坪数も大きく、予算もオーバーしていたんですが、そうなると普通なら予算的に合っている設計事務所のほうへ傾くのでしょうけど、桜庭さんに、次の段階として坪数の調整をお願いしたのは、〝話しやすさ〟があったからなんです。

初めて事務所を訪ねたときに桜庭さんとはお会いしていましたが、何でも気軽に話せる雰囲気があったんです。それが第一印象でした。こっちの話を、最後までしっかりと聞いて、その上でいろいろ提案してくれるんです。例えば、外壁のすべてに黒いガルバリウムを張れば全体的に金属っぽい感じになりそうだから、一部に何か別の素材を使ってほしい、と要望したら、即座に、「じゃ本物のスギを張りましょう」とか。〝本物のスギ〟という言葉に、大工としての誇りのようなものを感じましたね。

話を聞く姿勢に好印象 依頼した決め手は人柄

——奥様の役割りはさしずめ〝大蔵省〟といったところでしょうか。

奥様の話　（笑ってうなずきながら）まずは銀行に行ってみました。融資の相談ですね。借り入れができるかどうか、そこを確認してからでないと進めませんからね。銀行からOKが出て、それから土地探しをしました。主人が不動産屋とか情報をいろいろ集めてきた中で、以前住んでいた場所から近くの現在地に決めたんです。住宅の見学会を見始めたのはそれからです。

弘前とか鶴田町とか、青森市の会社の住宅も主人について行って見学しました。これはその後、桜庭さんとお会いしてから気が付いたことなんですけど、桜庭さんはこちらの話すことにきちんと耳を傾けてくれたのに対して、見学会では、何か自社の良いとこばかりを売り付けるみたいで、説明が右の耳から左へといった感じでしたね。

壁の白と木肌が調和して清潔感漂う洗面スペース

ご主人の話　事務所で初めて桜庭さんとお会いしたとき、土地が90坪で、家族が3人で、1階にはリビングとキッチンを取り、2階には私と妻の共有の部屋、寝室、子供部屋――といった大まかな要望を話したら、桜庭さんから、これに書き込んでほしい、と質問形式の用紙を渡されました。家に帰って、記入して、さっそく次の日に今度は妻も連れて持って行きました。我ながら機敏な行動でしたが、振り返ってみれば、やはり桜庭さんの第一印象が良かったからなんですよ。お願いすることになりそうだという予感があったので妻を連れて行ったんだと思うんです。押し付けがましいところがちっともありませんでした。こっちが、こういうふうにしたいと提案すれば、良いと思いますよ、と受け入れてくれるし、頭ごなしに否定するということがありません。〝人柄〟が決め手でした。

――桜庭さんは、取材のときに同席しないんです。一緒にいれば、お客様が話しにくいだろうと気遣って。

奥様の話　そうそう、そういうところがいかにも桜庭さんですね。そういう方なんです。

ガルバリウムとスギのコントラストが美しい

『気創りの家』
有限会社 桜庭工務店
弘前市外崎4丁目2-6
TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325
http://saku-kou.com
E-mail:sakura52@amber.plala.or.jp

1952 HINOKIYA 一級建築士事務所

室内に漂う ヒバの香り スギやアカマツも県産

インターホンと隣り合わせに、表札が掲げられてあった。ローマ字で、SAKAMOTO。木で枠取りしてインターホンと表札とを一体にした手作りであった。枠の木も、表札の板もヒバだ。「実はこうなっているんですよ」と椛澤卓馬氏（1952HINOKIYA一級建築士事務所代表）が表札を引き上げると、中に、郵便の受け口が見えた。外から風が吹き込まないようにヒバの板でフタをし、それを表札にしたところがアイデア。玄関ドアもまた本物のヒバを縦張りにした重厚な手作りだ。開けると、森に分け入ったかのようなヒバ特有の清々しい香りに包まれた。

ユーザー訪問

坂本 様邸

DATA

八戸市柏崎　2017年4月竣工
■延べ床面積／40坪（132.56㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、柱、1階床、建具、一部外壁、バルコニー手摺り、塀）、スギ（柱、階段、2階床）、アカマツ（梁）。

――玄関に入ったら、真正面に庭が見えました。庭がある家の奥にまで、すーっと視線が通って、いきなり部屋の中に入ってしまったような感じを覚えました。そのように設計されたのですね。

椛澤代表の話　玄関ホールの先に、リビングが続いています。その間に、引き戸がありますが、ふだんは開けてあるので、玄関ホールから真っ直ぐに、リビングの掃き出し窓越しに庭が見えるのです。その幅約2・4mの掃き出し窓にも、内障子はありますが、日中は2枚とも壁の中に引き込んでおいて、窓一杯に植栽が眺められるようにしてあるのです。

庭は、隣のダイニングからも、リビング続きの和室からも見えます。視線の先に庭を見せて、生活空間に植栽の緑を取り込むようにしたのです。視線が壁や建具に遮られずに、通るということは、開放感と、風通しの良さにつながります。

――1階にヒバ、2階にスギを使うのが椛澤氏の〝こだわり〟。坂本様邸も同様ですか。

椛澤代表の話　そうです。1階は家族だけでなくお客様も迎え入れる空間ですから、玄関ドアも玄関ホールもリビングの床板も、清潔感ある色合いのヒバを使うようにしています。ヒバの香りも〝もてなし〟の一つですね。2階は、階段の踏板から

玄関に入ると“ヒバの空間”が迎え入れてくれる

始まって、主寝室も子供部屋の床も木肌が柔らかなスギが適材です。真冬に裸足でも冷たくありません。

――坂本様はいつから新築のご計画をされましたか。

奥様の話　上の子供が小学校に上がる前に建てる予定でした。以前から漠然とですけど「木の家」がいいな、って思っていたんです。玄関に入れば木の香りがするようなね。特にヒバの香りが好きだったので、ヒバを多く使った家にしたいと考えていました。そんな考えを以前から面識のあった椛澤さんに相談したところ、自分たちの考えていた家づくりとぴったり合っていました。そして(『青森県産材でエコな家づくり』No.Ⅴ掲載)S様邸や三沢のお宅も拝見させて頂き、お願いすることにしました。ヒバやスギやアカマツといった県産材を使うという椛澤さんの、地域を大事にする姿勢にも好感を覚えましたね。

リビングの掃き出し窓の障子(引込み戸)を開けると庭の植栽が見える(下)

ヒバ特有の清々しい香りに包まれたリビング

薪ストーブの暖かさが巡回するように、リビングの上部は吹き抜けに

――〝回遊動線〟も室内に開放感をもたらしているようですね。

椛澤代表の話　そうです。玄関ホールからダイニングへはリビングを通っても行けるし、反対側のキッチン続きの家事コーナーを通っても行けるようにしています。結局、回遊動線も〝視線の先を塞がない〟ということなんです。リビングの上部を吹き抜けにして、薪ストーブの暖かさが巡回するようにしたのも、いわば〝熱の回遊動線〟ですね。

――薪ストーブはご主人の要望ですか。

奥様の話　（うなずきながら）わたしは最初、反対だったんですよ。火を点けるのもスイッチ一つというわけにはいかなくて手間がかかるし、部屋が暖まるまでには時間がかかりそうだし。でも、主人の、「おれがやるから」という一言で付けることに決まったんです。

ご主人の話　毎朝5時半には起きてランニングをしています。起きたら薪ストーブに火を入れて、燃え上がるまでリビングでストレッチをして、それから出かければいいんだからお安いご用ですよ。30分ほどで帰ってきます。

窓を開ければ風が通る障子が落ち着きを醸す

――間取りに奥様が要望された点は。

奥様の話　アイランドキッチンにして、調理台を広くすることです。住んでいたアパートのキッチンが狭かったものだから、思いっ切り広く取りたいって。シンクも、既製品の角が丸いものじゃなく、四角にしたいと椛澤さんにお願いしたら、板金屋の手作りで応えてくれました。流し台の天板がヒバの厚い（3㎝）板で、その背後の、壁側の作業台もヒバです。引き出しの取っ手までもヒバにしてくれました。

それと、これは要望したのではないんですけど、和室の押入れってふつう襖が2枚あって、片側1枚ぶんしか開かないけど、それを椛澤さんが、全部ひらくようにしてくれたんです。（4尺5寸幅の）襖は1枚で、それを右側へ引くと、全部ひらいた状態になるんです。布団の出し入れにとても便利ですよ。

――ご主人の要望は。

リビング続きの和室。畳と床板のヒバが調和して清潔感を醸している

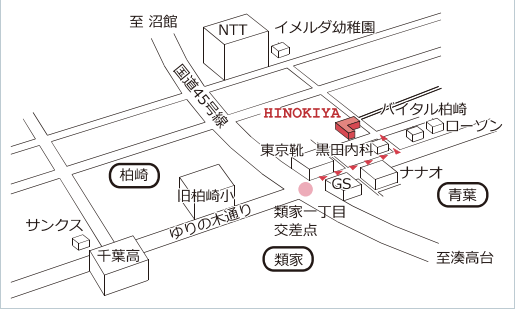
ご主人の話　家づくりは全面的に妻に任せました。一つだけ要望したのは、玄関です。玄関を、お客様用と、家族用とに分けてほしい、と。アパートのときに狭い玄関が靴で溢れていましたからね。シューズクローク（SC）の天井まである棚に家族全員の靴が収納できるからすっきりです。ランニングで汗をかいたジャージも下げておけるし、横に取り付けてくれたパイプには傘を下げておけますしね。

㊤リビングに続くキッチン。奥様の要望でキッチンはアイランド式に
㊨2つ並んだ子供部屋のうちお嬢ちゃんの部屋。将来広く使えるよう間仕切り壁は簡単に取り外せるようになっている

奥様の話　ふつうダイニングとリビングは真っ直ぐに続いているじゃないですか。縦とか横とかに。でも、椛澤さんの設計図では、リビングに、ダイニングのコーナーが斜めに食い込むかたちになっていたんです。椛澤さんによると、直線より斜線のほうが長いので、そのぶん視界が広く見える、とのことでした。完成したら、なるほどその通りで、リビングに来客があるときはコーナーの引き戸が閉められるのも便利です。

　このほかにも――2階の浴室の外に横格子（ルーバー）を回して床に置いた鉢植えが見えるようにしてくれたのも、寝室の窓とその真向かいの脱衣室の窓を開ければ風がすーっと通るのも、吹き抜けやバルコニーの手摺りも外の塀までも横格子で統一してくれた――などなど、随所に行き渡った細やかな配慮が、一級建築士のセンスなのですね。

1952 HINOKIYA
一級建築士事務所
有限会社 檜屋木材店内
八戸市柏崎三丁目8-13
TEL.0178-43-3848 FAX.0178-41-1002
http://1952hinokiya.net
E-mail : 1952hinokiya@gmail.com



三浦住建

築64年経つ総ヒバ造り 2期でリノベーション

大きな家だ。威厳がある。一部2階建てで、平屋の大屋根から差し出した下屋が二重の線を描きながら水平に流れて、軒先が跳ね上がっている。2階の壁面に家紋が描かれた、つまりは〝おおやけ〟なのだ。昭和28年（1953年）竣工、築64年で、延べ110坪の須郷俊治様邸。当時はまだなかった土間コンクリート工事のほか、断熱材を床下や壁、天井に施して断熱性を高め、畳敷きを現代の生活に合わせて洋室に替えるなど2年にわたってリノベーションした。取材の日、ソファで向き合った須郷様が、前日の新聞に載っていた旭日双光章受賞者の写真のお顔と重なった。

囲炉裏を再利用したテーブル

リノベーション
ユーザー訪問

須郷 俊治 様邸

DATA
板柳町石野宮本　2017年10月竣工
■延べ床面積／110坪（364.34㎡）
■使用青森県産材／総ヒバ造り。

――この家を建てたときの工期は何か月くらいでしたか。

須郷様の話　1年かかりましたね。明治に建てた前の家が古くなったので、父親が建て替えたんです。私が23歳のときです。木材は小泊から運びました。全部ヒバでした。

長女の話　改修しようと思い立ったのは〝寒さ〟なんです。とにかく寒くてね。家にはお客様用と、家族用と2つ玄関があっ

耐久性の高いヒバが惜しみなく使われている築64年の風格

て、最初は、家族用の玄関周りと、そこから入った居間などを改修する計画だったんです。でも、去年、その工事が終わったあと、わたしが母代わりに家に入らなければならなくなったので、お客様用の玄関から入った奥座敷と続き間は残して、あとの和室を、わたしの居住スペースとして洋室に直すことにしたんです。工事は去年と今年、それぞれ4か月ずつかかりました。

家そのものは総ヒバ造りだから頑丈なのでしょうけど、高齢になった両親には寒さと、段差が大きいなどいろいろ不都合なところが出てきて、それで知り合いの設計事務所の門前

ケヤキの式台とヒバの板を再利用して造られた靴箱

右側に建つ元のままの建具に合わせて正面の建具を造り直した玄関ホール

さん(㈱エクラン一級建築士事務所・門前孝治社長)にお声をかけたんです。門前さんの仕事仲間という三浦(三浦住建・三浦和也専務)さんが工事をしてくれることになりました。

三浦専務の話　築60年を超える家の改修を手がけるのは私としては初めてでした。60年以上経っても矍鑠(かくしゃく)として今も建ち続けていることに目を瞠(みは)る思いでしたね。田の字型の和室の中心に立つ5寸角(約15㎝)の柱や玄関の式台にケヤキが使われていますが、そのほかはバラ板まですべてヒバです。ヒバの差鴨居(さしがもい)(鴨居と一体になった梁)の成(せい)(部材の高さ)は尺2寸(約36㎝)で、幅は4寸(約12㎝)。その梁の幅に合わせて柱もみな4寸角です。一般に住宅の柱は3寸5分(約10㎝)ですが、60年も前に4寸もの太い柱を使っていたのですから、いかに鍛えた家かが分かりますね。耐久性の高いヒバをバラ板にまで惜しみなく使い、今のように電動工具がない時代で、大工たちがじっくりと1年もかけて木材を乾燥させながら建てたからこそ頑丈で長持ちなんですね。基礎も、その当時としてはたぶん〝はしり〟だったに違いない布基礎がしっかり打ってあって、土台も太いヒバ材なので、ぜんぜん問題ありませんでした。

畳敷きを板に張り替えたモダンな居間

ヒバとケヤキ使い靴箱 再生できる無垢の価値

長女の話　家族用の玄関は、改修前は土間になっていて、畑からそのまま入ってこられるように左手の出入り口と通じていました。通り土間ですね。そこに床を張って、開閉できる扉（開閉壁）で仕切って父の寝室にしました。玄関の土間に置いてあったケヤキの式台と、居間の畳の下に敷いてあったヒバの板を再利用して三浦さんが靴箱を作ってくれました。それと、家族用玄関からすぐ隣の和室にあった囲炉裏も、テーブルとしても使えるようにも再生してくれたんですよ。

居間の梁は黒色に変色していましたけど、特殊な薬品を使って、まるで新品みたいに綺麗になったのにはびっくりでした。居間の出入口の4枚のガラス入りの引き戸も、以前と同じデザインに作ってくれました。

床柱を中央に移した改修後（上）、改修前は仏間は左端にあった（下）

——元は和室の続き間だったと分かる欄間をあえて残した洋室が、ご長女の部屋ですね。

長女の話　そうです。ベッドを置いている寝室は、さっきの父の寝室みたいに開閉できる扉があって、使わないときには端に収納できるようになっていますし、洗面室も使わないときは見えないように扉を閉めておけます。改修前の家とはぜんぜん違って、新築みたいに新しくなりましたけど、明らかに変わったのは、暖かさです。どの部屋もあったかくて、これがいちばんありがたいですね。

須郷様の話　以前は、畳の下は土間だったが、そこに全部コンクリートを敷いてくれたから、冷や冷や感がなくなったね。

——奥座敷ではどこを改修したのですか。

三浦専務の話　左端にあった仏間（写真㊦）を、中央に移しました。それに伴って、床柱の位

置も変わりました。ただ左から右に変えたというだけでなく、床の間の背後に2尺幅の細い廊下があって、その分、床の間と仏間を後退させて和室を広くしたのです。

そうなると、天井まであった床柱の切り口（断面）が下から目につくので、単に隠すのではなく、床の間の意匠として、そこに曲がりのあるエンジュの幕板を架けました。そうすることによって〝奥座敷の風格〟を整えることができました。

床の間に曲がりのあるエンジュの幕板を架けることで奥座敷の風格が整えられた

寸分の狂いない納まり 大工の醍醐味は手刻み

——仏間と続き間を囲む廊下のヒバの板も張り替えたのですか。

三浦専務の話　いえ。元のヒバ板を再利用しました。表面にカンナをかけて、玄関ホールに新しく張ったケヤキの色に合わせて塗装したんです。元通りに張らないと隙間が出るので、取り外すときは1枚1枚番号を付けて、それをまた番号順に戻しました。

——襖や障子の建具は昔のままですね。

三浦専務の話　64年経ってもなお見劣りしないものでした。これも当時の建具職人の腕ですよ。ヒバの組子細工をはめ込んだ襖なんて今の住宅ではまずお目にかかりません。それに組子の欄間も、床の間の書院も、惚れ惚れするほど緻密に仕上げられています。それと、半円形の鏡がはめ込まれた襖。これも初めて見ました。組子の欄間といい、その欄間を上下にはさむ二重の長押といい、書院といい、須郷家の家宝ですよ。

——床の間の化粧板にも当時の大工の高い技術が見られるようですね。

三浦専務の話　床の間の化粧板には、板の反り返りを防ぐために桟木（さんぎ）という木材が裏側にあります。その桟木は蟻（あり）の頭のような三角形のほぞの形に造

半円形の鏡がはめ込まれた襖（左）と、職人の高い技術がうかがわれるヒバの組子細工をはめ込んだ襖（右）

元のヒバ板を再利用した歴史と風格を感じさせるヒバの廊下

り、それを板の裏側に仕込みます。その桟木が、64年経った今でも寸分の狂いなくピシッと納まっています。機械がほとんどない時代にあれほどの精度で木を加工できる技術。今は木材の加工はほとんど機械で行う時代ですが、やはり大工の醍醐味は手刻みで行う仕事だと改めて感じました。大いに刺激を受けました。

長女の話　今回のわが家の改修で勉強になったのが「無垢材」です。今の時代は「集成材」もあれば「合板」もあって、工場で貼り合わせたそれらもひと言で「木」と言われているけど、本物の「木」というのは山に生えていた木を伐り倒して製材したもの、ということなんですね。本物だからこそ、わが家の廊下のヒバの板のようにカンナをかけたら新品になったんですね。再生できる無垢材の価値を再認識した思いです。

――須郷様邸は、あと何年ぐらい持ちますか。

三浦専務の話　100年は持ちます。

（設計／㈱エクラン一級建築士事務所）

ここも元は畳敷きだった居間の一角。開閉壁で仕切れるようになっている

旧家らしく2階の壁面には家紋が打ち付けられている

職人の技を生かした住宅を!

三浦住建

弘前市取上3丁目2-6
TEL.0172-33-0597 FAX.0172-33-0597

株式会社 ミヨシプラス

軟弱地盤に 砕石パイル 水と地震に強い柔軟性

M様のご主人が、新築を依頼する腹づもりで、㈱ミヨシプラスを訪ねたのは2年前（2015年）のこと。親戚の東京の一級建築士に同行を願った。応接室のソファに向き合い、漆戸悟社長が、自社の家づくりについて話した内容は――①ビル建設経験から引用したオリジナルベタ基礎と、砕石を使ったパイル工法②防腐防蟻剤には安全なエコボロンPRO③木材は県産の無垢材③室内の壁は珪藻土――を採用。建物のデザインなど表面的な話は一切なく、安全で快適に長く暮らせる〝目に見えない部分〟の施工に徹した内容だった。一級建築士が太鼓判を押した。

ユーザー訪問

M様邸

DATA

八戸市尻内町　2017年3月竣工
■延べ床面積／68坪（225.24㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱）、アカマツ（梁、子供部屋床）など。

――一級建築士の〝お墨付き〟を得たのですから安心でしたね。

ご主人の話　建築士としてアドバイスしてもらおうと、東京から来てもらったんです。建てる場所は八戸駅の裏の土地区画整理地内で、もともと田んぼだった軟弱地盤だから、地盤改良をしっかりしておかないと、後々、家にも悪影響が出てくるわけですよ。そういうところはやはりプロの判断を仰ごうと思いましてね。

――砕石を使ったパイル工法とは。

ご主人の話　土地の底に水脈があることはすでに調査で分かっていました。漆戸さんが言うには、水脈のあるところにコンクリートパイルを打ち込むと、コンクリートには水が染み込まないから、水圧でパイルが浮き上がることもあるんだとか。何本もパイルを打ち込むので、水の力が何本にも働けば、家も浮くわけですね。その点、地中に掘った丸い穴の中に砕石を詰め込む方法だと、砕石の透き間を水が通れるので圧力は加わらない。それと、強い地震の力を受けてコンクリートパイルは折れる（せん断）こともあるのに対して、砕石だと曲がって力を逃がす柔軟性があるの

家が２軒並んで建っていると見える右側の建物は大きな小屋

玄関にも、その隣のシューズクロークにも付いている
ミヨシプラスのシンボルのキーボックス

だそうです。同じここの区画整理地内に漆戸さんが建てた現場も、砕石で地盤改良を行ったそうですよ。「そのほうがいいんだ」と一級建築士も薦めてくれました。

――頼むつもりでミヨシプラスを訪ねたそうですが、そもそもの出会いは。

ご主人の話　フリーペーパーでした。5、6年前のことで、家のポストに投げ込まれてあったフリーペーパーに、名刺くらいの小さな広告が載っていたんですよ。目が留まったのは、そこに書かれていた「県産材」です。つまり、県産材で家を建てる――という意味ですね。かねがね家を建てるなら地元の木で、と考えていたんです。地元の木で、地元の工務店に、とね。やっぱり地元が潤う〝地産地消〟でなくちゃ。

〝見えない部分〟が大事 快適で長持ちの家づくり

――漆戸社長と最初にお会いしたのは。

ご主人の話　ミヨシプラスの完成見学会でした。それがあることを知ったのもたぶんフリーペーパーだったでしょう。（見学

高性能の珪藻土が使用されているリビング

珪藻土の壁の白と木肌の淡い色調が美しいハーモニーを織りなすダイニングキッチン

会会場は『青森県産材でエコな家づくり』No.Ⅴで紹介の林崎進次様邸）。ひと目で「いいな」と思ったのは、家の造りがこてこてと飾り立てていないところ、床のどっしりとした感触から造りの確かさが伝わってきたところ、です。会場で、「目に見えない構造の部分が家づくりで最も大事だ」と熱い口調で語っていたのが漆戸さんでした。室内の壁に珪藻土を使うというのも気に入りましたね。

珪藻土には調湿と脱臭の効果があることは知っていました。「青森県では当社だけが取り扱っている高性能の珪藻土です」と漆戸さんが言っていましたよ。寝室やリビングも、からっとしていて、まったく臭いがしません。

それと、漆戸さんは、木造住宅の長持ちには「腐朽」と「シロアリ」対策がカギだと強調していました。一般に日本で防腐防蟻剤として使われている農薬系薬剤にはシックハウスの危険性があるのに対し、「当社では舐めても安全なホウ素系のエコボロンPROを標準で使って

柔らかで温かな感触のヒノキが張られた廊下

ご両親の寝室にもトイレ（右端）が付いている

1坪もあるゆったりとした1階のトイレ

います」と聞いて、「決めた」と思いましたね。住む人の安全安心に徹した家づくりで、これならアトピーのある娘も大丈夫です。

――母屋が見るからに大きいですね。

ご主人の話　68坪あります。子供が3人で、そのうち娘2人と、夫婦と、両親との6人暮らしだから、そのぶん部屋数も必要で、大きくなりました。60坪を超えれば固定資産税が高くなるとは承知の上でしたけど、だからといってせっかく建てるのだから、もっと広くすれば良かったと後悔しながら暮らすのも厭でしたしね。

どうせ60坪を超えるのだから、玄関も各部屋もトイレも納戸もみなひと回りずつ広く取りました。トイレは両親の部屋と、1階に1つ、2階に1つで全部で3つあります。1階のトイレはふつうの倍の1坪ありますよ。ゆったりと広くしたほうが何かといい、と薦める漆戸さんとそのへんも意見が合いましたね。

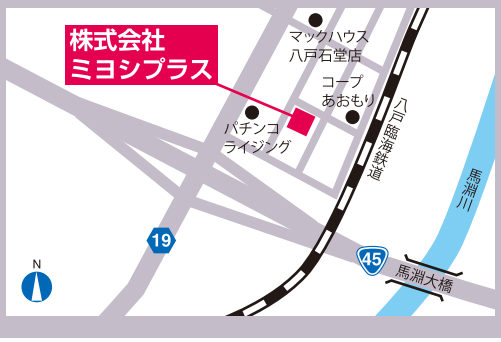
――建てたあとで「こうして良かった」と思われるところは。

ご主人の話　2階の乗せ方ですね。リビングと両親の部屋の上には2階をのせなかったんです。足音が気になるから、と漆戸さんからの提案でした。そのとおりで、頭の上でぜんぜん音がしません。

数多く建ててきた専門家の意見も、快適な生活に結び付くカギですね。

自宅工事前に移した先祖代々受け継ぐ祠

家（いえ）づくり　幸（しあわせ）づくり　夢（ゆめ）づくり

yumehouse 夢ハウスパートナー　株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所
八戸市石堂3丁目3-9　2階
TEL.0178-80-7357　FAX.0178-80-7318
E-mail : info@miyoshiplus.jp